

小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント

1. 基本的考え方

- (1) 教育基本法改正等で明確になった教育の理念を踏まえ、「生きる力」を育成
- (2) 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視、授業時数を増加
- (3) 道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成

2. 授業時数の増加

【小学校】総授業数 1年 850 2年 910 3年 945 4年～ 980

- 国語・社会・算数・理科・体育の授業時数を10%程度増加
- 週当たりのコマ数を低学年で週2コマ、中・高学年で週1コマ増加

【中学校】総授業数 1年～ 1015

- 国語・社会・数学・理科・外国語・保健体育の授業時数を実質10%程度増加
- 週当たりのコマ数を各学年で週1コマ増加

3. 教育内容の主な改善事項

(1) 言語活動の充実

- 国語をはじめ各教科等で記録、説明、批評、論述、討論などの学習を充実

(2) 理数教育の充実

- 国際的な通用性、内容の系統性の観点から指導内容を充実
〔台形の面積（小・算数） 解の公式（中・数学） イオン、遺伝の規則性、進化（中・理科）〕
- 反復（スパイラル）による指導、観察・実験、課題学習を充実（算数・数学、理科）

(3) 伝統や文化に関する教育の充実

- ことわざ、古文・漢文の音読など古典に関する学習を充実（国語）
- 歴史教育（狩猟・採集の生活や国の形成、近現代史の重視等） 宗教、文化遺産（国宝、世界遺産等）に関する学習を充実（社会）
- そろばん、和楽器、唱歌、美術文化、和装の取扱いを重視（算数、音楽、美術、技術・家庭）
- 武道を必修化（保体/中1・2）
- 総合的な学習の時間の学習の例示として、地域の伝統と文化を追加（小）

(4) 道徳教育の充実

- 発達の段階に応じて指導内容を重点化
〔人間としてしてはならないことをしない、きまりを守る（小） 社会の形成への参画（中） など〕
- 体験活動を推進
- 先人の伝記、自然など児童生徒が感動する魅力的な教材を充実
- 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実

(5) 体験活動の充実

- 発達の段階に応じ、集団宿泊活動、自然体験活動、職場体験活動などを推進（特別活動等）

(6) 外国語教育の充実

- 小学校に外国語活動を導入、聞くこと、話すことを中心に指導（小5・6）
- 中学校では聞く・話す・読む・書く技能を総合的に充実
（語数を増加〔900語程度まで→1200語程度〕、教材の題材を充実）

4. 重要事項

- 幼小連携を推進、幼稚園と家庭の連続性を配慮、預かり保育や子育て支援を推進（幼稚園）
- 環境、家族と家庭、消費者、食育、安全に関する学習を充実
- 情報の活用、情報モラルなどの情報教育を充実
- 部活動の意義や留意点を規定
- 障害に応じた指導を工夫（特別支援教育）
- 「はだめ規定」（詳細な事項は扱わないなどの規定）を原則削除

【参考】

学習指導要領改訂の基本的な考え方は7つ

- 1 教育基本法を踏まえた改訂である。
 - ・ 公共の精神、生命、伝統文化の尊重
- 2 生きる力の理念の共有
- 3 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- 4 思考力・判断力・表現力の育成
- 5 確かな学力を確保するために必要な授業時間の確保
- 6 学習意欲の向上や学習習慣の確立
- 7 豊かな心と健やかな体の育成のための指導の充実

学習指導要領の法的な根拠

学校教育法	第33条	教科の関する事項は文部科学大臣が定める
学校教育法施行規則	第50条	（教科の規定、中は72）
同	第51条	（授業時間数と一単位時間の定め、中は73）
同	第52条	文部科学大臣が公示する学習指導要領による

学習指導要領とは何か

「小・中学校において教育課程を編成する一定の水準を確保する全国的な基準」

* 現行の学習指導要領は、平成20年3月28日公示、平成24年4月1日全面实施

学習指導要領の基準性とは何か

「子どもに共通して指導する内容であって学校では必要に応じてその内容を加えて指導してもよいという性格のこと」

教育課程とは

「教育課程に関する法令に従い、各教科、道徳、総合的な学習の時間および特別活動について、それらの目標やねらいを実現するよう教育内容を学年に応じ、授業時間との関連において総合的に組織した各学校の教育計画である。」

教育課程の編成は何によって行うか

「学習指導要領と県が出している教育課程編成要領による（管理規則4）」

【確認】小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント

1. 基本的考え方

- (1) 教育基本法改正等で明確になった教育の理念を踏まえ、「」を育成
- (2) ()の習得と()・()・()等の育成のバランスを重視、
()を増加
- (3) ()や()などの充実により、()や()を育成

2. 授業時数の増加

- 【小学校】総授業時数 1年() 2年() 3年() 4年~()
- 国語・社会・算数・理科・体育の授業時数を()%程度増加
 - 週当たりのコマ数を低学年で週()コマ、中・高学年で週()コマ増加
- 【中学校】総授業時数 1年~()
- 国語・社会・数学・理科・外国語・保健体育の授業時数を実質()%程度増加
 - 週当たりのコマ数を各学年で週()コマ増加

3. 教育内容の主な改善事項

- (1) ()の充実
- 国語をはじめ各教科等で記録、説明、批評、論述、討論などの学習を充実
- (2) ()教育の充実
- 国際的な通用性、内容の系統性の観点から指導内容を充実
 - ()による指導、観察・実験、課題学習を充実
- (3) ()に関する教育の充実
- ことわざ、古文・漢文の音読など古典に関する学習を充実
 - 歴史教育、宗教、文化遺産に関する学習を充実
 - そろばん、和楽器、唱歌、美術文化、和装の取扱いを重視
 - ()を必修化
 - 総合的な学習の時間の学習の例示として、地域の伝統と文化を追加(小)
- (4) ()教育の充実
- 発達の段階に応じて指導内容を重点化
 - 体験活動を推進
 - 先人の伝記、自然など児童生徒が感動する魅力的な教材を充実
 - ()を中心とした指導体制を充実
- (5) ()体験活動の充実
- 発達の段階に応じ、集団宿泊活動、自然体験活動、職場体験活動などを推進(特別活動等)
- (6) ()教育の充実
- 小学校に外国語活動を導入、聞くこと、話すことを中心に指導(小5・6)
 - 中学校では聞く・話す・読む・書く技能を総合的に充実

4. 重要事項

- () を推進、幼稚園と家庭の連続性を配慮、預かり保育や子育て支援を推進
- 環境、家族と家庭、消費者、() () に関する学習を充実
- () の活用、() モラルなどの情報教育を充実
- () の意義や留意点を規定
- () に応じた指導を工夫
- 「()」を原則削除

解答欄

1. 基本的考え方

- (1) ()
- (2) () () () ()
- ()
- (3) () () () ()

2. 授業時数の増加

【小学校】(1) (2) (3) (4 ~) () %、() コマ、() コマ

【中学校】(1 ~) () %、() コマ

3. 教育内容の主な改善事項

- (1) () の充実
- (2) () 教育の充実 ○ () による指導
- (3) () に関する教育の充実 ○ () を必修化
- (4) () 教育の充実 ○ ()
- (5) () 体験活動の充実
- (6) () 教育の充実

4. 重要事項

- () を推進
- () () に関する学習を充実
- () ()
- ()
- ()
- 「()」を原則削除